

公益財団法人

りそなアジア・オセアニア財団

第7回（平成28年度）

事業報告書

平成28年4月1日から平成29年3月31日まで

I. 事業概況

平成23年3月31日付で公益財団法人への移行登記を行ったため、平成28年4月1日から平成29年3月31日まで（以下、当年度という）の7期目の当年度が、公益財団法人としては実質的に、6年目の事業年度である。

当年度は、事業計画に従い、セミナー事業、助成事業、環境事業の各事業を行うとともに、公益法人関連法令等を遵守して、事業活動を実施した。

1. セミナー事業

以下の通り、ビジネス・セミナーを4回開催し、我が国中堅・中小企業のアジア展開に資するような情報提供や提言を行うと共に、環境シンポジウムを1回開催し、アジアの発展と環境のあり方についての提言や、助成者代表からの事業報告を行った。（総出席者 884名）

(1) 成長戦略の切り札TPPとビジネスチャンス（出席者265名）

平成28年6月22日 於：帝国ホテル大阪 3階 エンパイアルーム

第1部 TPPー動き始めた我が国の通商政策

講師：経済産業省 通商政策局 通商機構部長 渡辺 哲也 氏

第2部 関西ペイントのグローバル化戦略

講師：関西ペイント株式会社 代表取締役社長 石野 博 氏

(2) 南アジアビジネスの魅力に迫る

～インド・スリランカからグローバル戦略を考える～（出席者125名）

平成28年10月14日 於：ホテルニューオータニ大阪 2階 鳳凰の間

第1部 インド・スリランカの経済&ビジネス動向

講師：日本貿易振興機構（ジェトロ）大阪本部 本部長 藤井 真也 氏

第2部 インドにおける最新ICT（IoT, AI, デジタル）サービスビジネスの動向

講師：ウィプロ・リミテッド日本代表 高谷 直秀 氏

第3部 スリランカの国際企業エクスポランカへの投資とグローバル戦略

講師：SGホールディングス株式会社代表取締役 近藤 宣晃 氏

(3) 2017年新春セミナー（出席者243名）

世界の成長センター・アジア～その成長をどう取り込むのか～

平成29年1月27日 於：大阪商工会議所 国際会議ホール

第1部 良品計画の海外展開

講師：株式会社良品計画 名誉顧問（前会長） 松井 忠三 氏

第2部 アジア経済の動向と展望

講師：野村證券株式会社 チーフ・マーケットエコノミスト 木下 智夫 氏

(4) 激動の2017年アジア・オセアニアにおける経済連携のゆくえ（出席者128名）

平成29年3月17日 於：シティプラザ大阪 2階旬の間

第1部 オーストラリア経済と日本とアジアの貿易・投資

講師：在大阪オーストラリア総領事館 総領事 デイビッド・ローソン 氏

第2部 今後の日本の通商戦略について

講師：経済産業省 通商政策局 通商機構部参事官 飯田 博文 氏

(5) 環境シンポジウム（出席者123名）

国際交流から考えるアジア・オセアニアの経済と環境保全

平成28年11月21日 於：シティプラザ大阪 2階 燦の間

講演 スポーツを通じた国際交流

講師：NPO法人ハート・オブ・ゴールド代表理事 有森 裕子氏（元プロマラソン選手）

事例報告 我々の活動における国際交流 ～成功例と課題について～

報告者①：大阪大学グローバルイニシアティブセンター 思 沁夫 氏

報告者②：千葉工業大学名誉教授 瀧 和夫 氏

報告者③：一般社団法人あいあいネット副代表理事 島上 宗子 氏

報告者④：早稲田大学留学センター教授 高野 孝子 氏

パネルディスカッション：相互理解から地球環境問題の解決へ

パネリスト：有森裕子氏、島上宗子氏、高野孝子氏、（財団理事長）廣富靖以

コーディネーター：総合地球環境学研究所教授（財団選考委員長）阿部 健一氏

2. 助成事業

当年度は、次の3分野について公募による助成事業を行った。

- ・調査研究助成
- ・国際交流活動助成
- ・啓発・広報活動助成

当年度の助成額は、計23件21,320千円であり、各分野の内訳は次の通りである。

(1) 調査研究助成

我が国とアジア・オセアニア諸国との間の国際交流及び政治、経済、文化、歴史等に関する調査研究並びにこれ等の活動を行う者に対する助成で、公募を経て平成28年3月開催の理事会において、平成28年度前期案件として2件2,050千円の助成を決定した。

又、平成28年度の公募により88件の応募があり、当財団選考委員会の選考を経て平成29年3月開催の理事会において、平成28年度後期案件として17件13,570千円の助成を決定した。但し、決定後辞退者1名が出たため、助成額は16件13,220千円となった。

(2) 国際交流活動助成

我が国とアジア・オセアニア諸国との間の各種交流の推進と国際会議、シンポジウム、セミナー、講演会等の開催並びにこれ等の活動を行う者に対する助成で、公募を経て平成28年3月の理事会において平成28年前期案件として1件1,200千円の助成を決定した。

又、平成28年度の公募により7件の応募があり、当財団選考委員会の選考を経て平成29年3月開催の理事会において、平成28年度後期案件として2件2,450千円の助成を決定した。

(3) 啓発・広報活動助成

我が国とアジア・オセアニア諸国との各種国際交流事業に関する啓発及び広報に関する活動を行う者に対する助成で、公募により17件の応募があり、当財団選考委員会の選考を経て、平成29年3月開催の理事会において、平成28年度後期案件として2件2,400千円の助成を決定した。

3. 環境事業

平成23年度よりスタートした事業で、アジア・オセアニア諸国における自然環境の保護及び整備を目的とする支援事業で、公募により新規案件として12件の応募があり、当財団選考委員会の選考を経て7件を採択。3月開催の理事会において、平成28年度案件として継続案件6件を含めて、13件12,460千円の支援を決定した。

II. 庶務事項

1. 理事会

(1) 平成28年度第1回理事会

開催日 : 平成28年5月20日 於:りそな銀行大阪本社ビル

議案 : 1. 平成27年度計算書類・事業報告の承認の件
2. 定時評議員会招集決定の件
3. 環境事業選考委員選任の件

報告事項 : 1. 代表理事・業務執行理事の職務遂行状況の報告
2. 特定資産の平成28年度運用状況の報告

以上、第1号議案から第3号議案まで可決承認された。

(2) (決議省略) 理事会 (平成28年6月6日)

議案 : 1. 理事長、専務理事選定の件

代表理事が、上記議案を提案し、理事全員から書面により同意の意思表示を得、監事全員から書面により異議がない旨の意思表示を得たので、第1号議案を可決承認する旨の理事会決議があったものとみなされた。

(3) 平成28年度第2回理事会

開催日 : 平成29年3月1日 於:りそな銀行大阪本社ビル

議案 : 1. 平成28年度(後期)助成事業案件選考の件
2. 平成28年度環境事業案件選考の件
3. 平成29年度事業計画書・収支予算書・資金調達及び設備投資の見込みを記載した書類につき承認を求める件
4. 助成事業選考委員、環境事業選考委員の選任の件

報告事項 : 1. 代表理事・業務執行理事の職務遂行状況の報告
2. 特定資産の運用状況の報告

以上、第1号議案から第4号議案まで可決承認された。

2. 評議員会

(1) 平成28年度定時評議員会

開催日 : 平成28年6月6日 於:シェラトン都ホテル東京

議案 : 1. 平成27年度計算書類・事業報告の承認の件
2. 理事6名選任の件

報告事項 : 1. 平成27年度第2回理事会の決議内容について
2. 平成28年度第1回理事会の決議内容について
3. 各事業の進捗状況について

以上、第1号議案から第2号議案まで可決承認された。

3. 選考委員会

(1) 第7回助成事業選考委員会

開催日 : 平成28年12月16日 於: シェラトン都ホテル東京

議案 : 1. 助成案件選考の件 (平成28年度後期)

2. 選考方法の見直しについて

3. 平成29年度事業計画について

以上、第1号議案にて助成案件が選考され、第2号第3号議案は可決承認された。

(2) 第7回環境事業選考委員会

開催日 : 平成28年12月13日 於: りそな銀行大阪本社ビル

議案 : 1. 支援案件選考の件

2. 平成29年度事業計画について

以上、第1号議案にて支援案件が選考され、第2号議案は可決承認された。

4. 評議員・役員等の異動

(1) 平成28年度定時評議員会において、理事の任期満了に伴う改選を行い、次の通り選任された。

廣富 靖以 (重任) 竹内 定夫 (重任) 立本 成文 (重任)

廣常 啓一 (重任) 鷲尾 友春 (重任) 恒田 和徳 (新任)

(任期は平成28年6月6日から平成30年6月定時評議員会の終結の時まで)

(2) (決議省略) 理事会 (平成28年6月6日) において、次のとおり、代表理事、業務執行理事を選定した。

代表理事 (理事長) 廣富 靖以 (重任)

業務執行理事 (専務理事) 恒田 和徳 (新任)

(任期は平成28年6月6日から平成30年6月定時評議員会の終結の時まで)

(3) 平成28年度第1回理事会において、次のとおり、環境事業選考委員1名が、増員で選任された。

環境事業選考委員 仁井 裕幸 (新任)

(任期は平成26年6月7日から平成29年3月31日まで)

(4) 平成28年度第2回理事会において、助成事業及び環境事業選考委員会委員の任期満了に伴う改選を行い、次の通り選任された。

【助成事業選考委員】

須藤 健一 (重任) 浅見 靖仁 (重任) 高木 誠一郎 (重任)

弘末 雅士 (重任) 広瀬 崇子 (重任) 福島 輝彦 (重任)

【環境事業選考委員】

阿部 健一 (重任) 池 道彦 (重任) 印東 道子 (重任)

仁井 裕幸 (重任) 八丁 信正 (重任)

(任期は平成29年4月1日から平成31年3月31日まで)

5. 登記・届出事項

(1) 登記事項

平成28年6月13日 理事の改選に伴う登記を行った。

(2) 内閣府への届出等

平成28年6月24日 事業報告等の提出を行った。

平成28年7月 5日 理事の改選に伴う届出を行った。

平成29年3月31日 平成29年度事業計画書等の提出を行った。

6. その他

(1) 平成28年11月21日開催した環境シンポジウムにおいては、環境事業開始5年が経過した区切りとして、過去の環境事業助成者全員の参加を求めるとともに、助成者のみでワークショップを開催。参加者を4つのグループに分け、4名からの事例発表を交え活発な情報交換・意見交換がなされた。また、今後の財団の環境事業の運営についても貴重なご意見を伺う機会となった。シンポジウム終了後には、助成者間の交流を目的とした懇親会を開催。参加者全員より今後の事業活動の糧となる有意義な催しであったとの評価をいただいた。

(2) 平成28年7月13日より7月19日まで、アジアにおける環境事業の視察のため、ネパール、ブータンへ海外出張を行った。まずネパールでは、本年度より助成を実施しているNPO法人ムラのミライのバグマティ川再生事業について、バグマティ川の上流、中流、下流で実施された課外環境学習を見学。また日本大使館、JICA事務所を訪問し、ネパールの政治、経済、社会、環境の現状についてヒアリングした。一方ブータンでは、環境事業選考委員の八丁教授がJICAを通じてため池の技術支援を行ったブータン農業省担当者を訪問し、事業の状況およびブータンの抱える課題についてヒアリングを行った。併せてJICA事務所を訪問し、政教一体となったブータン社会の現状および日本との関係についてヒアリングを行った。

セミナー事業実施一覧表(平成28年度)

		第1回		第2回		第3回		第4回	
開催日		2016年6月22日(水)		2016年10月14日(金)		2017年1月27日(金)		2017年3月17日(金)	
時間		14:30~17:05		14:20~16:55		13:50~16:35		14:10~16:45	
場所		帝国ホテル大阪 3階 エンパイアルーム		ホテルニューオータニ大阪 2階鳳凰の間		大阪商工会議所 国際会議ホール		シティプラザ大阪 2階 旬の間	
テーマ		成長戦略の切り札TPPとビジネスチャンス		南アジアビジネスの魅力に迫る ～インド・スリランカから グローバル戦略を考える～		2017年新春セミナー 世界の成長エンジン・アジア ～その成長をどう取り込むのか～		激動の2017年アジア・オセアニア における経済連携のゆくえ ～日豪ビジネスの可能性を探る～	
テーマ 講師	<p><第1部> 「TPP一働き始めた我が国の通商政策」 経済産業省 通商政策局 通商機構部長 渡辺 哲也 氏</p>		<p><第1部> 「インド・スリランカの経済&ビジネス動向」 ジェトロ大阪本部 本部長 藤井 真也氏</p>		<p><第1部> 「良品計画の海外展開」 株式会社良品計画 名誉顧問(前会長) 松井忠三氏</p>		<p><第1部> オーストラリア経済と日本とアジアの貿易・投資 在大阪オーストラリア総領事館 総領事 デイビッド・ローソン氏</p>		
	<p><第2部> 「関西ペイントのグローバル化戦略～グローバル中堅後発メーカーの チャレンジャーとしての戦略～」 関西ペイント株式会社 代表取締役社長 石野 博 氏</p>		<p><第2部> 「インドにおける最新ICT(IoT, AI, デジタル)サービスビジネスの動向」 ウィプロ・リミテッド日本代表 ウィプロ・ジャパン株式会社代表取締役 高谷 直秀 氏</p>		<p><第2部> 「アジア経済の動向と展望」 野村證券株式会社 チーフ・マーケット・エコノミスト 木下 智夫氏</p>		<p><第2部> 「今後の日本の通商戦略について」 経済産業省 通商政策局 通商機構部 参事官 飯田 博文氏</p>		
			<p><第3部> 「スリランカの国際企業エクスポランカへの投資とグローバル戦略」 SGホールディングス株式会社代表取締役 EXPOLANKA HOLDINGS Chairman 近藤 宣晃 氏</p>						
申込者数		392名		160名		310名		179名	
出席者数		265名		125名		243名		128名	
アンケート回答枚数		185名		88名		153名		77名	
アンケート回答者業種		製造業	38.4%	製造業	34.7%	製造業	37.9%	製造業	30.6%
		商社・貿易	10.8%	調査・コンサルタント	10.5%	商社・貿易	13.7%	サービス	15.3%
		調査・コンサルタント	8.7%	流通・小売	7.3%	調査・コンサルタント	8.5%	団体	9.7%
		サービス	7.0%	金融	7.3%	流通・小売	5.2%	商社・貿易	8.3%
		金融	4.3%	商社・貿易	6.5%	サービス	3.9%	金融	8.3%
		流通・小売	4.3%	団体	6.5%	建設	3.9%	調査・コンサルタント	6.9%
		省庁・自治体	3.8%	情報・通信関連	5.6%	金融	3.9%	流通・小売	2.8%
		団体	2.7%	サービス	4.8%	省庁・自治体	3.3%	省庁・自治体	2.8%
		建設	2.7%	建設	4.8%	団体	2.0%	物流	1.4%
		その他	17.3%	その他	12.1%	物流	16.4%	情報・通信関連	1.4%
第1部 評価	印象	非常に役に立った	20.1%	非常に役に立った	27.4%	非常に役に立った	37.7%	非常に役に立った	16.0%
		役に立った	66.5%	役に立った	69.0%	役に立った	58.3%	役に立った	77.3%
		あまり役に立たなかった	12.9%	あまり役に立たなかった	2.7%	あまり役に立たなかった	4.0%	あまり役に立たなかった	6.7%
		役に立たなかった	0.5%	役に立たなかった	0.9%	役に立たなかった	0.0%	役に立たなかった	0.0%
第2部 評価	印象	非常に役に立った	58.6%	非常に役に立った	11.0%	非常に役に立った	40.8%	非常に役に立った	27.4%
		役に立った	38.2%	役に立った	49.5%	役に立った	55.7%	役に立った	69.4%
		あまり役に立たなかった	2.6%	あまり役に立たなかった	31.9%	あまり役に立たなかった	3.5%	あまり役に立たなかった	1.6%
		役に立たなかった	0.6%	役に立たなかった	7.6%	役に立たなかった	0.0%	役に立たなかった	1.6%
第3部 評価	印象	非常に役に立った	33.3%	非常に役に立った	33.3%	非常に役に立った	33.3%	非常に役に立った	33.3%
		役に立った	61.1%	役に立った	61.1%	役に立った	61.1%	役に立った	61.1%
		あまり役に立たなかった	3.3%	あまり役に立たなかった	3.3%	あまり役に立たなかった	3.3%	あまり役に立たなかった	3.3%
		役に立たなかった	2.2%	役に立たなかった	2.2%	役に立たなかった	2.2%	役に立たなかった	2.2%
今後取上げて欲しいテーマ セミナーへの要望・意見等	具体的感想	・中小企業をテーマに海外展開の紹介		・ASEAN, TPP, 中国経済の今後		・業種は問わず、海外展開を積極的にされている企業責任者の話を多く伺いたい		・現地企業経営者のスピーチ	
		・ロボット、IoT、AIの活用、最先端		・アメリカ大統領が決まった時点で、緊急セミナーを実施してほしい		・資料を含めて、質の高いセミナー有り難うございました		・アセアン共同体における中小企業の展開展望例	
		・グローバル企業の戦略、食品、飲料メーカー編		・エマージングマーケットについて定期的に情報をUPDATEしたい		・大阪で成功している企業様の様子も知ることが出来れば有り難いです		・トランプ政策の今後の実効について(検証でも可)	
		・関西企業のグローバル展開戦略		・東南アジアのこれからの観光事情、インバウンドについて		・トランプ大統領の中間報告について(2017年夏ごろ)		・AI等のテクノロジーについて、各国の市場規模や取組状況を聞きたい	

セミナー事業実施一覧表(平成28年度)

《環境シンポジウム》

開催日	2016年11月21日(月)		
時間	13:00~16:30		
場所	シティプラザ大阪 2階 燦の間		
テーマ	国際交流から考えるアジア・オセアニアの経済と環境保全		
基調講演	「スポーツを通じた国際交流」 NPO法人ハート・オブ・ゴールド代表理事 有森 裕子 氏 (元プロマラソン選手)		
事例発表	「我々の活動における国際交流について～成功例と課題について～」		
	①大阪大学グローバルイニシアティブセンター 特任准教授 思 沁夫氏 ツァンホルガリ遊牧民環境保護組合代表 ションホル・レルグイ氏	② 千葉工業大学名誉教授 瀧 和夫氏	
	③ 一般社団法人あいあいネット副代表理事 島上 宗子氏	④ 早稲田大学留学センター教授 高野 孝子氏	
パネルディスカッション	「相互理解から地球環境問題の解決へ」 コーディネーター:阿部 健一 氏(総合地球環境学研究所 教授) パネリスト:有森氏、島上氏、高野氏、理事長		

〈アンケート結果〉

出席者数	123名		(質問)どの国・地域の環境問題に関心がありますかへの回答			
回答枚数	61名		<ul style="list-style-type: none"> ・中国の正確な現状における環境問題とその対策! ・ミャンマーは日本企業の進出が加速するので、環境に配慮した行動が求められる ・タイの地方都市におけるゴミ処理の現状と日本の協力状況 ・地球温暖化の「真実」と今後の未来の展望、日本はどうあるべきか? ・COP21(気候変動枠組条約第21回締結国会議)のゆくえ 			
回答者業種	製造業	19.8%			今後シンポジウムで取上げて欲しいテーマ・要望・意見	
	学生	18.0%			<ul style="list-style-type: none"> ・本日のように地道な活動をされている方やグループにスポットライトをあてて欲しい ・途上国での「幸せ」とは何か。現地の人々の本当の幸せを求めて真剣に考える必要がある ・環境保全や今後の未来等を考えるシンポジウムとして会場レイアウトや構成に新しい視点を取り入れたりすれば、さらに良い支援や国際交流が生まれるのではないかと思います 	
	調査・コンサルタント	9.8%				
	商社・貿易	6.6%				
	サービス	6.6%				
	団体	4.9%				
その他	34.3%					
(1)シンポジウム全体評価			(2)基調講演評価			
非常に役に立った	40.4%	非常に役に立った	52.4%			
役に立った	56.1%	役に立った	47.6%			
あまり役に立たなかった	3.5%	あまり役に立たなかった	0.0%			
役に立たなかった	0.0%	役に立たなかった	0.0%			
<p>〈主な具体的意見〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分で不足していた部分で欲していた事柄が全部言語で聞けて良かった ・環境保全に対してそれぞれの立場で何をすべきか、できるかを考えさせてくれた。 ・設備導入よりも、ソフト導入が継続のキーになることを認識させてくれた。 ・国際交流が人を育て、それが経済や環境に還元され、お互いの違いを認め合うことで相乗効果が生まれてくるという環境や国際交流を考える良い機会になりました ・リそながこういったNPO団体に寄付していることは良いことで、我々一般市民にとっても有り難い ・貴財団の経済と環境保全の指す意味が良く理解できたとともに、シンポジウムの狙いが判った ・世界情勢が大きく変化していく中で、日本がまた自分自身がどの様に生き、周りの人や国と助け合い、協力し合うことが重要かを改めて考えるきっかけとなりました。 			<p>〈主な具体的意見〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カンボジアの子供達の生きようとする力に感動されて有森様が行動を起こしたお話に感動し、私も何かしなければという気持ちになり、意欲が湧いてきました ・有森さんの実体験を通じたお話を聞き、色々な活動の方法や人間としての生き方の参考になった ・国際交流と子供の教育においてスポーツがいかにも有用であるか、よく理解できました ・超一流のアスリートのHeartとPassionが伝わって来てよかった ・「違う」を前提に1つ1つ丁寧に積み上げられた大会づくりの根本には、「人材育成」があったことを再確認でき、成果の見えにくいこのテーマを継続されてきたことに感銘を受けました ・生きることの原点を理解して活動されたことに感銘しました。指導者、先導者にとって大事なことを気づかしていただき、仏教の教えに通じるものがありました 			
(3)事例発表評価			(4)パネルディスカッション評価			
非常に役に立った	37.9%	非常に役に立った	36.4%			
役に立った	58.6%	役に立った	51.5%			
あまり役に立たなかった	3.4%	あまり役に立たなかった	12.1%			
役に立たなかった	0.0%	役に立たなかった	0.0%			
<p>〈主な具体的意見〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・やはり机上ではなく、実際の具体的な活動例は実態がよく解り、大いに役立った ・様々な取り組みと工夫に感動しました ・女性代表のパワーを感じ、豊かな気持ちになりました ・モンゴルの環境保全に当財団が寄与し、理事長自ら現地視察されたことの意義が良く判った ・様々な形での国際交流があることに気付かされた。もっと世間で認知度が上がれば良い ・本日のようなアジア・オセアニアで活動している国際交流事例を日本国民に広く認知される方策を考える必要がある ・我々の知らぬところで地道に研究し努力し発展されていることの大きさを感じ、有意義な講演でした ・国際交流は現地の人を育てるだけでなく、支援者も一緒に成長している姿が伺えた。支援＝助けるではなく、相互に成長できる機会だという事が分かった 			<p>〈主な具体的意見〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・有森さんの講演についての島上さん、高野さんのコメントはとても首肯できた ・見えにくい成果へのあくなきチャレンジ精神! パネラーの皆さん全員が輝いて感動し元気を頂いた ・皆様「本当に大切なものは何か」を本音で語り、心に響いた ・生きていくためのサポート、本当にその通りだと思います。その立ち位置を忘れず活動していきます ・小さな助成金でのプロジェクトのほうが、現場、地元や人に届くプロジェクトをつくらと思う ・成熟した日本がなすべきことは、アジア・オセアニア諸国との相互交流によって理解を深め、相互の豊かさのための経済活動を行なうべきと考える ・それぞれの活動の原点にせまる理解に繋がった ・活動や思いをうまく言葉にまとめる方法を学んだ ・sustainability大事ですね! 			

平成28年度 助成事業

(1) 調査研究助成

《個人研究》

No.	研究課題	研究者	研究者所属	助成金額
*1	中国ムスリムの移動とエスニシティに関する歴史人類学的研究: 19-20世紀中央アジアへの移民	うんの のりこ 海野 典子	東京大学大学院 総合文化研究科 博士課程	1,000,000
*2	二元法制の形成と展開: マレーシア地域におけるイスラム法制史の再考	みつなり あゆみ 光成 歩	国立国会図書館 非常勤研究員	1,050,000
3	日本統治初期台湾の地域社会と土地問題 —植民地国家—社会関係の視角から	にった りゅうき 新田 龍希	東京大学 教養教育高度化機構 特任助教	750,000
4	植民地期朝鮮における衣服の社会史的研究 —民衆の衣生活における実践とその変化の分析を通じて—	ひらの つるこ 平野 鶴子	常盤大学 非常勤講師	800,000
5	「集団非公式帝国」と国際開発の間 —中国国際管理構想から国際連盟の対中技術協力へ—	おびや しゅんすけ 帯谷 俊輔	東京大学大学院 総合文化研究科 国際社会科学専攻 博士課程	850,000
6	台湾におけるシラヤ族の民族的アイデンティティの形成に関する 人類学的研究 —博物館資料の社会還元と先住民族の手工芸再興を中心に—	ろ いーびん 呂 怡屏	総合研究大学院大学 文化科学研究科 比較文化学専攻 博士後期課程	780,000
7	ポスト・スハルト期インドネシアのイスラーム社会と大衆文化の変容 をめぐる人類学的研究	あらかき りょう 荒木 亮	首都大学東京大学院 博士後期課程	900,000
8	20世紀前半インドネシアにおけるイスラーム諸団体の連携と対植 民地政府活動	とさばやし けいた 土佐林 慶太	早稲田大学大学院 文学研究科 博士後期課程	900,000
9	中国農村女性の対抗運動の現状とその将来—北京Z女性法律援 助組織の閉鎖を手掛かりに—	り あこう 李 亜姣	お茶の水女子大学 人間文化創成科学研究科 ジェンダー学際研究 博士後期課程3年	500,000
10	中国共産党一党体制下における人民法院の政治制度としての役割	ないとう ひろこ 内藤 寛子	慶応義塾大学大学院 SPC研究所上席所員	850,000
11	植民地インドにおける法の支配の比較研究	いながき はるき 稲垣 春樹	首都大学東京 都市教養学部 人文・社会系国際文化コース 助教	700,000
12	修復的司法における対話のメカニズムとその効果 —オーストラリアの修復的司法カンファレンスを事例として—	すずき まさひろ 鈴木 政広	グリフィス大学大学院 犯罪学研究科 博士後期課程	270,000
13	近代日本の対中国農業観の変容と戦後への影響 —三本木原営農支場の設立以後を中心に—	みむら たつや 三村 達也	千葉大学大学院 人文社会科学研究科 特別研究員	810,000
14	順治期のモンゴル政策 —テンギスのハルハ逃亡事件を手掛かりに—	せきね とみみ 関根 知良	筑波大学大学院 人文社会科学研究科 歴史・人類学専攻 一貫制博士課5年次	800,000
15	反福祉国家シンガポールの少子高齢化時代における公的福祉の 役割	おちあい えみ 落合 絵美	シンガポール国立大学 人文社会科学部 客員研究員	600,000

《共同研究》

No.	研究課題	研究者	研究者所属	助成金額
16	地理情報システム(GIS)を用いたフィジー語方言地図の作成とそれに基づくヒトの移動史の解析	きくさわ りつこ 菊澤 律子	人間文化研究機構 国立民族学博物館 准教授	1,000,000
17	戦間期東南アジア(1919-1939)における共産主義思想の「土着化」に関する比較研究	せりざわ たかみち 芹澤 隆道	京都大学東南アジア研究所 日本学術振興会特別研究員P D	710,000
18	先史時代東南アジアにおけるモノ・ヒト・技術とその移動に関する考古学的研究 —新たな海域ネットワークモデルの構築を目指して—	みやま えみり 深山 絵実梨	早稲田大学 文学研究科考古学コース 博士後期課程	2,000,000

(2) 国際交流活動助成

《国際会議、シンポジウム等開催助成》

No.	研究課題	研究者	研究者所属	助成金額
*1 9	孫文生誕150周年記念国際学術シンポジウム: 「孫文とアジア太平洋—ネイションを越えて」	おがた やすし 緒形 康	神戸大学大学院 人文研究科 教授	1,200,000
20	国際シンポジウム「東アジアの国際秩序変動と南シナ海問題」	すずき あやめ 鈴木 絢女	同志社大学法学部	800,000
21	東南アジア考古学会40周年記念大会国際シンポジウム 「東南アジア・オセアニアの世界遺産と考古学」	たなか かずひこ 田中 和彦	鶴見大学文学部 文化財学科 准教授	1,650,000

(3) 啓発・広報活動助成

《出版助成》

No.	研究課題	研究者	研究者所属	助成金額
22	『中国史像と政治構想—内藤湖南のまなざし』(仮)	しゅ りん 朱 琳	東北大学大学院 国際文化研究科 講師	1,200,000
23	論文集『日中終戦と戦後アジアへの展望』(仮題)	なかむら もとや 中村 元哉	津田塾大学学芸学部 国際関係学科 教授	1,200,000

* No.1、2、19は、平成28年度前期助成実施分

平成28年度助成事業 助成金合計
23件 21,320,000円

平成28年度 環境事業

《環境プロジェクト助成》

No.	活動題目(企画名)	申請者	研究者所属	助成金額
1	フィリピン世界遺産「イフガオの棚田」の稲作耕作放棄と棚田崩壊をなくすための現地社会活動への支援	つじい ひろし 辻井 博	農村発展研究所 所長	500,000
2	インドネシア熱帯泥炭域(中央カリマンタン州バランカラヤ地域)の森林と水環境の保全ための環境教育の提案と実践活動の支援	こまい ゆきお 駒井 幸雄	大阪工業大学 工学部環境工学科 特任教授	1,000,000
3	インドネシア・エビ養殖地河川流域住民による環境整備活動	つる あきこ 津留 歴子	株式会社 オルター・トレード・ ジャパン社 産地責任者	1,000,000
4	ネパール・バグマティ川再生のはじめの一步、親子で学ぶ川の環境	なかた とよかず 中田 豊一	特定非営利法人ムラのミライ 代表理事	990,000
5	モンゴルにおけるサイレージ技術の導入を通じた自然災害への地域適応力の向上および防災・環境教育の普及、発展	す ちんふ 思 沁夫	大阪大学 グローバルイニシアティブセンター 特任准教授	1,000,000
6	モンゴル国ゴビ地域における牧畜民による砂漠化防止活動	なかむら ひろし 中村 洋	(一財)地球・人間環境フォーラム	1,000,000
7	ベトナム北部山岳に暮らすムオン民族と取り組む環境保全型の村づくり	いのう まゆ 伊能 まゆ	特定非営利活動法人 Seed to Table 理事長	1,000,000
8	インドネシアにおける「森の聞き書き」環境教育プログラムの展開—自立的な仕組み構築をめざして	しまがみ もとこ 島上 宗子	(一社)あいあいネット 副代表理事	1,000,000
9	スクールガーデンで学ぶパーマカルチャー:東ティモールの環境保全型農業の推進	いづか のりこ 飯塚 宜子	京都大学東南アジア研究所 研究員	1,000,000
10	ジャカルタのため池再生のための水と緑の活動	みずの こうすけ 水野 広祐	京都大学東南アジア研究所 教授	1,000,000
11	森林火災からボルネオの森を市民で守る防災予防と環境保全活動	まるやま さちこ 丸山 幸子	F. C. Manis. (マニスファンクラブ) 代表理事	1,000,000
12	アラルの森プロジェクト	いしだ のりお 石田 紀郎	特定非営利活動法人 市民環境研究所 代表理事	970,000
13	北部タイにおける煙害防止	しのぎ よしゆき 凌 祥之	九州大学大学院 教授	1,000,000

平成28年度環境事業 助成金合計
13件 12,460,000円

事業報告の附属明細書

事業報告の内容を補足する重要な事項は無い。

第 7 回 財 務 諸 表 等

(平成 2 8 年 4 月 1 日～平成 2 9 年 3 月 3 1 日)

貸 借 対 照 表

貸 借 対 照 表 内 訳 表

正 味 財 産 増 減 計 算 書

正 味 財 産 増 減 計 算 書 内 訳 表

財 務 諸 表 に 対 す る 注 記

附 属 明 細 書

財 産 目 録

公益財団法人りそなアジア・オセアニア財団

貸借対照表

(平成29年3月31日現在)

(単位：円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	7,917,004	7,944,458	△ 27,454
未収金	432	0	432
未収収益	3,249,088	2,892,768	356,320
流動資産合計	11,166,524	10,837,226	329,298
2. 固定資産			
(1) 特定資産			
国際交流事業資金	713,098,429	809,122,202	△ 96,023,773
管理運営資金	204,195,191	219,172,925	△ 14,977,734
特定資産合計	917,293,620	1,028,295,127	△ 111,001,507
(2) その他固定資産			
建物付属設備	498,770	547,037	△ 48,267
什器備品	232,650	0	232,650
ソフトウェア	440,640	558,144	△ 117,504
敷金	2,856,000	2,856,000	0
その他固定資産合計	4,028,060	3,961,181	66,879
固定資産合計	921,321,680	1,032,256,308	△ 110,934,628
資産合計	932,488,204	1,043,093,534	△ 110,605,330
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	2,380,221	583,977	1,796,244
流動負債合計	2,380,221	583,977	1,796,244
2. 固定負債	0	0	0
負債合計	2,380,221	583,977	1,796,244
III 正味財産の部			
1. 指定正味財産			
寄附金	913,971,895	1,024,975,888	18,559,413
指定正味財産合計	913,971,895	1,024,975,888	△ 111,003,993
(うち特定資産への充当額)	【 913,971,895 】	【 1,024,975,888 】	【 △ 111,003,993 】
2. 一般正味財産	16,136,088	17,533,669	△ 1,397,581
(うち特定資産への充当額)	【 3,321,725 】	【 3,319,239 】	【 2,486 】
正味財産合計	930,107,983	1,042,509,557	△ 112,401,574
負債及び正味財産合計	932,488,204	1,043,093,534	△ 110,605,330

貸借対照表内訳表
(平成29年3月31日現在)

(単位：円)

科 目	公益目的事業会計	法人会計	合 計
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	5,453,435	2,463,569	7,917,004
未収金	432	0	432
未収収益	2,173,972	1,075,116	3,249,088
流動資産合計	7,627,839	3,538,685	11,166,524
2. 固定資産			
(1) 特定資産			
国際交流事業資金	713,098,429	0	713,098,429
管理運営資金	0	204,195,191	204,195,191
特定資産合計	713,098,429	204,195,191	917,293,620
(2) その他固定資産			
建物付属設備	399,014	99,756	498,770
什器備品	186,120	46,530	232,650
ソフトウェア	352,512	88,128	440,640
敷金	2,284,800	571,200	2,856,000
その他固定資産合計	3,222,446	805,614	4,028,060
固定資産合計	716,320,875	205,000,805	921,321,680
資 産 合 計	723,948,714	208,539,490	932,488,204
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	2,329,059	51,162	2,380,221
流動負債合計	2,329,059	51,162	2,380,221
固定負債	0	0	0
負 債 合 計	2,329,059	51,162	2,380,221
III 正味財産の部			
1. 指定正味財産			
寄附金	713,098,202	200,873,693	1,024,975,888
指定正味財産合計	713,098,202	200,873,693	913,971,895
(うち特定資産への充当額)	【713,098,202】	【200,873,693】	【913,971,895】
2. 一般正味財産	8,521,453	7,614,635	16,136,088
(うち特定資産への充当額)	【227】	【3,321,498】	【3,321,725】
正味財産合計	721,619,655	208,488,328	930,107,983
負債及び正味財産合計	723,948,714	208,539,490	932,488,204

正味財産増減計算書

(平成28年4月1日から平成29年3月31日)

(単位：円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
特定資産運用益	16,752,001	17,541,423	△ 789,422
特定資産受取利息	16,752,001	17,541,423	△ 789,422
国際交流事業資金受取利息	13,873,326	15,004,497	△ 1,131,171
管理運営資金受取利息	2,878,675	2,536,926	341,749
受取寄付金等振替額	46,001,993	42,067,587	3,934,406
雑収益	421,475	3,573	417,902
受取利息	298	2,385	△ 2,087
雑収益	421,177	1,188	419,989
経常収益計	63,175,469	59,612,583	3,562,886
(2) 経常費用			
事業費	55,779,537	52,228,931	3,550,606
支払助成金	34,130,000	28,230,000	5,900,000
会議費	525,425	294,847	230,578
旅費交通費	3,300,744	4,196,138	△ 895,394
通信運搬費	398,695	400,606	△ 1,911
消耗什器備品費	1,646,166	2,039,824	△ 393,658
消耗品費	124,891	100,145	24,746
印刷製本費	2,973,122	3,664,272	△ 691,150
新聞図書費	78,356	90,384	△ 12,028
光熱水料費	147,397	139,075	8,322
賃借料	5,498,928	4,405,772	1,093,156
雑費	6,819,236	8,541,801	△ 1,722,565
減価償却費	136,577	126,067	10,510
建物付属設備減価償却費	38,614	38,614	0
什器備品減価償却費	3,960	0	3,960
ソフトウェア償却	94,003	87,453	6,550
管理費	2,513,513	2,247,162	266,351
会議費	350,280	193,625	156,655
旅費交通費	644,799	520,018	124,781
通信運搬費	102,852	93,530	9,322
消耗什器備品費	5,894	23,092	△ 17,198
消耗品費	27,317	25,037	2,280
印刷製本費	109,648	99,574	10,074
新聞図書費	19,588	22,595	△ 3,007
光熱水料費	36,849	34,771	2,078
賃借料	776,628	776,628	0
雑費	405,514	426,776	△ 21,262
減価償却費	34,144	31,516	2,628
建物付属設備減価償却費	9,653	9,653	0
什器備品減価償却費	990	0	990
ソフトウェア償却	23,501	21,863	1,638
経常費用計	58,293,050	54,476,093	3,816,957
評価損益等調整前当期経常増減額	4,882,419	5,136,490	△ 254,071
特定資産評価損益等	△ 6,280,000	△ 745,560	△ 5,534,440
評価損益等計	△ 6,280,000	△ 745,560	△ 5,534,440
当期経常増減額	△ 1,397,581	4,390,930	△ 5,788,511
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	△ 1,397,581	4,390,930	△ 5,788,511
一般正味財産期首残高	17,533,669	13,142,739	4,390,930
一般正味財産期末残高	16,136,088	17,533,669	△ 1,397,581
II 指定正味財産増減の部			
特定資産評価益	0	65,450,000	△ 65,450,000
特定資産評価損	△ 65,002,000	△ 4,823,000	△ 60,179,000
一般正味財産への振替額	△ 46,001,993	△ 42,067,587	△ 3,934,406
当期指定正味財産増減額	△ 111,003,993	18,559,413	△ 129,563,406
指定正味財産期首残高	1,024,975,888	1,006,416,475	18,559,413
指定正味財産期末残高	913,971,895	1,024,975,888	△ 111,003,993
III 正味財産期末残高	930,107,983	1,042,509,557	△ 112,401,574

正味財産増減計算書内訳表
(平成28年4月1日から平成29年3月31日)

(単位:円)

科 目	公益目的事業会計	法人会計	合 計
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
特定資産運用益	13,873,326	2,878,675	16,752,001
特定資産受取利息	13,873,326	2,878,675	16,752,001
国際交流事業資金受取利息	13,873,326	0	13,873,326
管理運営資金受取利息	0	2,878,675	2,878,675
受取寄付金等振替額	46,001,993	0	46,001,993
雑収益	421,415	60	421,475
受取利息	238	60	298
雑収益	421,177	0	421,177
経常収益計	60,296,734	2,878,735	63,175,469
(2) 経常費用			0
事業費	55,779,537	0	55,779,537
支払助成金	34,130,000	0	34,130,000
会議費	525,425	0	525,425
旅費交通費	3,300,744	0	3,300,744
通信運搬費	398,695	0	398,695
消耗什器備品費	1,646,166	0	1,646,166
消耗品費	124,891	0	124,891
印刷製本費	2,973,122	0	2,973,122
新聞図書費	78,356	0	78,356
光熱水料費	147,397	0	147,397
賃借料	5,498,928	0	5,498,928
雑費	6,819,236	0	6,819,236
減価償却費	136,577	0	136,577
建物付属設備減価償却費	38,614	0	38,614
什器備品減価償却費	3,960	0	3,960
ソフトウェア償却	94,003	0	94,003
管理費	0	2,513,513	2,513,513
会議費	0	350,280	350,280
旅費交通費	0	644,799	644,799
通信運搬費	0	102,852	102,852
消耗什器備品費	0	5,894	5,894
消耗品費	0	27,317	27,317
印刷製本費	0	109,648	109,648
新聞図書費	0	19,588	19,588
光熱水料費	0	36,849	36,849
賃借料	0	776,628	776,628
雑費	0	405,514	405,514
減価償却費	0	34,144	34,144
建物付属設備減価償却費	0	9,653	9,653
什器備品減価償却費	0	990	990
ソフトウェア償却	0	23,501	23,501
経常費用計	55,779,537	2,513,513	58,293,050
評価損益等調整前当期経常増減額	4,517,197	365,222	4,882,419
特定資産評価損益等	△ 6,280,000	0	△ 6,280,000
評価損益等計	△ 6,280,000	0	△ 6,280,000
当期経常増減額	△ 1,762,803	365,222	△ 1,397,581
2. 経常外増減の部			0
(1) 経常外収益			0
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			0
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	△ 1,762,803	365,222	△ 1,397,581
一般正味財産期首残高	10,284,256	7,249,413	17,533,669
一般正味財産期末残高	8,521,453	7,614,635	16,136,088
II 指定正味財産増減の部			0
特定資産評価益	0	0	0
特定資産評価損	△ 50,022,000	△ 14,980,000	△ 65,002,000
一般正味財産への振替額	△ 46,001,993	0	△ 46,001,993
当期指定正味財産増減額	△ 96,023,993	△ 14,980,000	△ 111,003,993
指定正味財産期首残高	809,122,195	215,853,693	1,024,975,888
指定正味財産期末残高	713,098,202	200,873,693	913,971,895
III 正味財産期末残高	721,619,655	208,488,328	930,107,983

財 務 諸 表 に 対 す る 注 記

1 重要な会計方針

(1) 有価証券の評価基準及び評価方法

決算日の市場価額等に基づく時価法によっている。

(2) 固定資産の減価償却の方法

有形固定資産・無形固定資産の減価償却方法は、定額法によっている。

(3) 消費税の会計処理

消費税の会計処理は、税込方式によっている。

2 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。

(単位：円)

科 目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	評価損益	当期末残高
基 本 財 産					
投資有価証券	0	0	0	0	0
定期預金	0	0	0	0	0
小 計	0	0	0	0	0
特 定 資 産					
管理運営資金					
投資有価証券	219,172,925	0	34,052,925	△ 14,980,000	170,140,000
定期預金	0	34,055,191	0	0	34,055,191
国際交流事業資金					
投資有価証券	809,122,202	297,178,000	346,638,202	△ 50,022,000	709,640,000
定期預金	0	3,458,429	0	0	3,458,429
合 計	1,028,295,127	334,691,620	380,691,127	△ 65,002,000	917,293,620

附 属 明 細 書

1. 基本財産及び特定資産の明細

財務諸表に対する注記に記載している。

2. 引当金

該当なし

財 産 目 録

(平成29年3月31日現在)

(単位：円)

貸借対照表科目		場所・物量等	使用目的等	金額
(流動資産)				
	現金預金	普通預金	運転資金として	7,917,004
	未収金	未収金	運転資金として	432
	未収収益	保有債券未収利息	運転資金として	3,249,088
流動資産計				11,166,524
(固定資産)				
特定資産				
	管理運営資金		公益目的事業に必要な業務又は	
	投資有価証券	シルフリミテッドシリーズ50283 [ロイヤル・ダッチ・シェル・ホールディング]	活動の用に供する財産であり	170,140,000
	定期預金	りそな銀行大阪営業部 定期預金 No. 3197167	運用益を財源として使用	34,055,191
				204,195,191
	国際交流事業資金		交付者の定めた用途に充てる	
	投資有価証券	パークレイズバンク・ ミューチュアルパワーリバースデュアル債	ために保有している資金で、	100,185,000
	投資有価証券	シルフリミテッドシリーズ1750 [第43回 利付国債(30年)]	元本及び運用益を公益目的事業	208,280,000
	投資有価証券	シルフリミテッドシリーズ50283 [ロイヤル・ダッチ・シェル・ホールディング]	の財源として使用	42,535,000
	投資有価証券	シルフリミテッドシリーズ50366 [ゼネラル・エレクトリック・カンパニー]		86,750,000
	投資有価証券	シルフリミテッドシリーズ50391 [アップル・インク]		85,600,000
	投資有価証券	シルフリミテッドシリーズ50249 [ウォルマート・ストアーズ]		96,170,000
	投資有価証券	シルフリミテッドシリーズ2129 [第148回 利付国債(20年)]		90,120,000
	定期預金	りそな銀行大阪営業部 定期預金 No. 3197167		3,458,429
				713,098,429
その他固定資産				
	敷金	大阪市中央区、主たる事務所の賃借の敷金	うち80%が公益目的保有財産であり、	2,856,000
	建物付属設備	大阪市中央区、主たる事務所の付属設備等	公益目的事業の用に供している。	498,770
	什器備品	パソコン	うち20%が管理運営用財産であり、	232,650
	ソフトウェア	会計ソフト	運営管理の用に供している。	440,640
				4,028,060
固定資産合計				921,321,680
資産合計				932,488,204
(流動負債)				
	未払金	助成金、セミナー印刷費等	当年度発生費用の未払分	2,380,221
流動負債合計				2,380,221
負債合計				2,380,221
正味財産				930,107,983

監査報告書

公益財団法人 りそなアジア・オセアニア財団
理事長 廣富 靖以 殿

私たち監事は、平成28年4月1日から平成29年3月31日までの平成28年度の理事の職務の執行について監査を行いましたので、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第99条第1項並びに公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律施行規則第33条第2項の規定に基づき本監査報告書を作成し、以下のとおり報告いたします。

1 監査の方法及びその内容

私たち監事は、理事及び使用人等と意思疎通を図り、情報の収集および監査の環境の整備に努めるとともに、理事会その他重要な会議に出席し、理事等からのその職務の執行について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を閲覧し、業務及び財産の状況を調査いたしました。

以上の方法によって、当該年度に係る事業報告及びその附属明細書を監査しました。

さらに、会計帳簿又はこれに関する資料の調査を行い、当該年度に係る計算書類及びその附属明細書並びに財産目録について監査しました。

2 監査の結果

(1) 事業報告等の監査結果

- ①事業報告及びその附属明細書は、法令及び定款に従い、法人の状況を正しく示しているものと認めます。
- ②理事の職務の執行に関する不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実は認められません

(2) 計算書類及びその附属明細書並びに財産目録の監査結果

計算書類及びその附属明細書並びに財産目録は、法人の財産及び損益の状況をすべて重要な点において適正に示しているものと認めます。

平成29年5月15日

公益財団法人 りそなアジア・オセアニア財団

監事 小田原 岸夫 

監事 川崎 清隆 